

⑫ 公開特許公報(A) 平3-62382

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)3月18日

G 11 B 23/42
27/10D 8622-5D
C 8726-5D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 フロッピーディスク

⑯ 特 願 平1-197614

⑰ 出 願 平1(1989)7月28日

⑱ 発 明 者 田 島 朝 幸 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

1. 発明の名称名

フロッピーディスク

2. 特許請求の範囲

1. フロッピーディスクにおいて、ディスクの各セクター間の区切りの延長線上のディスクの周縁部に切り込みを有し、第1のセクターと最後のセクター間の切り込みは他の切り込みと区別できるようにしており、シャッタ部におおよそそのトラックの位置を示す目盛を有することを特徴とするフロッピーディスク。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はフロッピーディスクに関する。

〔従来技術〕

従来のフロッピーディスクでは、記録されているセクターが媒体表面のどの位置にあるかを、媒体表面を磁気現像して見て決定していた。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来のフロッピーディスクは、記録さ

れている情報がディスク表面のキズ等の欠陥で読出し不能になった場合、テスター等で障害のあったセクタートラックの場所がわかっていて、ディスク表面の状態を観察しようとするとき、そのままの状態では、障害のあったセクターおよびトラックが媒体表面のどの位置にあるか決定できないので、媒体表面を磁気現像して場所を決定する方式をとっており、すなわち、媒体自体を破壊してしまうので、再び障害の発生した媒体を使用できなくなるという欠点がある。

本発明の目的は、フロッピーディスクを破壊せずに障害のあったセクターおよびトラックが媒体表面のどの位置にあるか決定できるフロッピーディスクを提供することである。

〔課題を解決するための手段〕

本発明のフロッピーディスクは、ディスクの各セクター間の区切りの延長線上のディスクの周縁部に切り込みを有し、第1のセクターと最後のセクター間の切り込みは他の切り込みと区別できるようにしており、シャッタ部におおよそそのト

トラックの位置を示す目盛を有する。

〔作用〕

フロッピーディスクにおいて、記録されている情報が読出し不能等の障害があって、テスター等にて障害の発生したセクターおよびトラックがわかっている場合、第1セクターと最後のセクター間の切り込みを基準として、目的のセクターまで切れこみの数を数えていくことでそのセクターのディスク上の位置がわかり、またシャッタ部の目盛でたいのトラックの位置がわかる。

〔実施例〕

次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例を示すフロッピーディスクの平面図、第2図はシャッタ部の平面図である。

ディスクにはディスク上に記録される第1のセクターと最後のセクター間に切りこみ1aが、また他のセクター間に切りこみ2aが形成されている。3aは1セクター分の記録された部分である。

効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示すフロッピーディスクのディスクの平面図、第2図はそのシャッタ部の平面図である。

1a、2a…切り込み

3a…1セクター分の記録領域

1b、2b…目盛

特許出願人 日本電気株式会社

代理人 弁理士 内原 晋

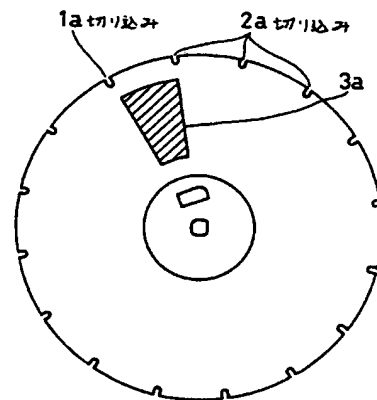
る。なお、切り込み1aは切り込み2aより長くなっている。

一方、シャッタ部には、ディスクの外側の端に合せるための目盛1bと、おおよそのトラックの位置を示す目盛2bが設けられている。

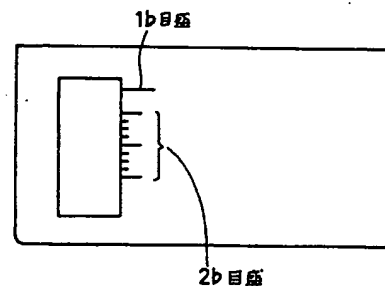
フロッピーディスクにおいて、記録されている情報が読出し不能等の障害があって、テスター等にて障害の発生したセクターおよびトラックがわかっている場合、切りこみ1aを基準として、目的のセクターまで切りこみの数を数えていくことでディスク上のそのセクターの位置がわかり、また、まず目盛1bにディスクの外側の端を合せて目盛2bでたいのトラックの位置がわかる。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、ディスクのセクター間に切り込みを、シャッタ部におおよそのトラックの位置を示す目盛を有することにより、フロッピーディスクを破壊せずに各セクターおよびトラックのディスク表面の位置を決定できるので再びそのフロッピーディスクを使用できるという



第 1 図



第 2 図